

災害時における被災者非難の生起メカニズムの検討

— 公正世界信念の機能に着目して —

○加藤聖子・坂田桐子（広島大学大学院総合科学研究科） seiko-kato@hiroshima-u.ac.jp

キーワード：災害、被災者非難、公正世界信念

JSSP 2019

問題 | 災害時における被災者非難

日本は災害大国：東日本大震災、平成30年7月豪雨、台風19号
福島第一原子力発電所事故被災者へ非難が発生

例：嫌がらせを受けた被災者44% (辻内, 2017)

災害時の被災者非難に関する先行研究 (Zagefka et al., 2011)

- 被災者への寄付額 = 自然災害 (津波) > 人為災害 (民族紛争)
- 災害の原因 (自然・人為) と寄付額の関連を被災者非難が媒介

問題点：実験参加者の公正世界信念は測定されていない

公正世界信念 (Lerner, 1980)

世界は突然の不幸に見舞われることのない公正で安全な場所
人はその人に相応しいものを手にしているとする信念

→公正世界信念への脅威が被害者非難へ (Warner, Vandeursem, & Pope, 2012)

被害者非難が起こりやすい状況

(Correria & Vala, 2003; Correria, Vala, & Aguiar, 2007)

- 被害にあった原因をどこにも帰属できない場合
- 被害者が長期的に苦しむ (被害の回復が望めない) 場合

内在的公正世界信念

ある出来事が起こった原因を過去の行いによるものと信じる傾向

加害者が特定されていない場合
→被害の原因を被害者に帰属する

(Maes, 1998)

加害者が特定されている場合

→加害者への厳罰傾向となり、被害者非難とは関連がない (村山・三浦, 2015)

究極的公正世界信念

不公正によって受けた損失が将来的に埋め合わされると信じる傾向

加害者の特定の有無に限らず、被害者との間に心理的な距離を取り、被害者を自分と関係ないものとする、非直接的な被害者非難と関連する可能性

(Hafer & Begue, 2005)

不公正世界信念 この世に公正は存在しないと信じる傾向

不公正をただすための方法を見つけれない場合、被害者非難をする可能性 (Bennett, 2008)

目的 |

- 公正世界信念によって災害被災者に対する非難が生じるかを検討
- 自然災害と人為災害 (自然災害だが、被害を大きくした原因が人にあると認識される災害) で公正世界信念による被災者非難の程度が異なるかを検討

仮説 |

自然災害の被災者に対しても公正世界信念が強いほど非難が生じる

RQ | 人為災害と自然災害のどちらで被災者非難が強いのか？

先行研究 (村山・三浦, 2015) の知見から責任の所在がある程度特定されている人為災害では被災者非難は生じないはず



加害者に相当するものが個人ではなく国や企業といった集団であるために、厳罰を課すことが現実的に難しいような場合には人為災害でも被災者非難が生じる可能性

結果 |

◆災害の原因の操作チェック◆

自然災害条件 ($M = 5.2$) > 人為災害条件 ($M = 4.2$)
($t(198) = 4.30, p < .001$) → 操作成功

◆単純傾斜検定◆

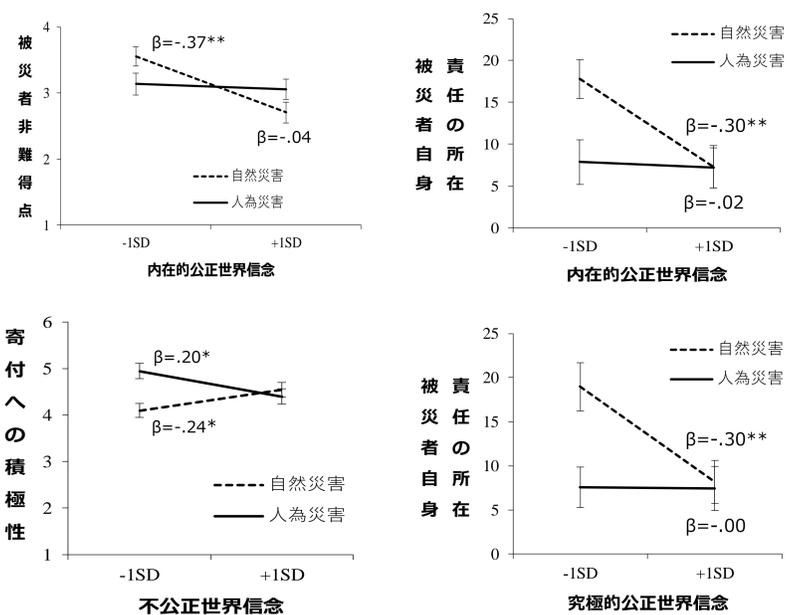


Table1 被災者非難、被災者の責任、寄付への積極性を目的変数とした階層的重回帰分析

被災者非難・被災者の責任・寄付への積極性を目的変数とした階層的重回帰分析

目的変数	被災者非難		被災者の責任		寄付への積極性	
	Step2	Step3	Step2	Step3	Step2	Step3
説明変数	β	β	β	β	β	β
条件 (自然・人為)	-.01	-.01	-.04	-.14*	.13 ⁺	.13 ⁺
内在的	-.21**	-.20**	-.16*	-.15*	.24**	.24**
条件 (自然・人為) × 内在的		.17*		.14*		-.04
R^2	.10*	.12*	.09**	.10**	.10**	.10**
ΔR^2	.05**	.03*	.05**	.19*	.08**	.00
条件 (自然・人為)	-.05	-.05	-.17*	-.17*	.17*	.17*
究極的	-.18*	-.20**	-.13 ⁺	-.15*	.18*	.17*
条件 (自然・人為) × 究極的		.12 ⁺		.15*		.05
R^2	.08**	.10**	.08**	.10**	.07**	.07*
ΔR^2	.03*	.01 ⁺	.04*	.02*	.05**	.00 ⁺
条件 (自然・人為)	-.03	-.03	-.15*	-.15*	.15*	.15*
不公正	.02	.02	.05	.05	.00	-.02
条件 (自然・人為) × 不公正		-.04		.01		-.22**
R^2	.05*	.05 ⁺	.06*	.06*	.04 ⁺	.09**
ΔR^2	.00	.00	.03 ⁺	.00	.02	.05**

** $p < .01$, * $p < .05$, ⁺ $p < .10$

0=自然、1=人為

方法 |

参加者：2019年7月、株式会社クロス・マーケティングのモニター会員200 (男女各100) 名に対してWebによるシナリオ実験を実施 (年齢20~59歳, $M=39.8$, $SD=11.3$)

実験デザイン：1要因2条件 (自然災害or人為災害) 参加者間計画

シナリオ：自然災害条件→台風による河川堤防決壊、被災者が自力で生活再建ができなくなった。人為災害条件→台風による河川堤防決壊の原因が、官製談合で決まった業者の手抜き工事によるものである旨を追加。

測定変数：1. シナリオ場面の想像度 1項目, 7件法 2. シナリオ中の被災者に対する寄付への積極性 5項目, 7件法 (Zagefka et al., 2011; $\alpha=.89$) 3. 災害の責任の所在「自然」「被災者自身」「その他」の割合が合計100%になるよう記入 4. 災害の原因：人為(1)~(7)自然の7件法 5. 被災者非難 4項目 7件法 (Zagefka et al., 2011; $\alpha=.71$)

6. 公正世界信念12項目, 5件法 (村山・三浦, 2015), 究極的公正世界信念 ($\alpha=.87$), 内在的公正世界信念 ($\alpha=.86$), 不公正世界信念 ($\alpha=.86$)

7. 回答者の属性 (性別、年齢、災害ボランティア経験回数など)

考察 |

◆不公正世界信念については仮説支持

→自然災害では、この世が不公正だと信じる程度が低いほど、寄付への積極性が低い結果となった
→人為災害では、この世が不公平だと信じる程度が高い人ほど、寄付への積極性が高い結果となった

◆内在的・究極的公正世界信念については仮説不支持

→犯罪被害者等の先行研究とは異なった結果だった
→災害に関しては異なった影響を及ぼしている可能性

◆このような結果になったメカニズムについてさらに検討する必要がある